

アカデミアの ほっと一息



～教授室だより～

■鹿児島から初の県外生活！

令和7年4月に鹿児島県さつま町から派遣され、市町村アカデミーで勤務することとなり、早いもので一年が経ちました。

今回が私にとって初めての県外生活です。それまでずっと地元・鹿児島で生活してきたため、着任前は「ちゃんと新しい環境で生活していけるだろうか」という不安の方が大きかったことを覚えています。

実際に生活を始めてみると、最初は慣れない環境に戸惑うこともありましたが、新しい発見も多く、日々新鮮な気持ちで過ごしています。新しい仕事と新しい生活を通じ、少しずつではありますが、自分の視野や考え方の変化を感じています。

最近では少しずつ「千葉での生活」が自分の日常になってきたように感じています。

■市町村アカデミーでの業務

主に研修の企画・運営に携わっています。

講師との調整やカリキュラムの構成、研修当日の運営など、業務は多岐にわたりますが、共通しているのは、「より良い研修にするためにはどうすればよいか」を考え続けることです。

地域ごとに抱える課題や取組が大きく異なる中で、「現場で活かせる内容になっているか」「受講者にとって分かりやすい内容になっているか」などを意識し、日々試行錯誤しています。

また、集合研修を行う市町村アカデミーの特徴として、研修生同士が自由に交流し、互いの地域の取組や課題について情報交換する姿をよく目にします。講義を受けるだけでなく、そうした交流も、集合研修ならではの大切な時間なのだと思います。

■“受ける側”から“つくる側”へ

これまで私は、窓口業務や福祉関係の業務などに従事し、地域住民の方々と直接向き合ってきました。一方で、現在は研修を提供する側として、多くの自治体職員に向けて学びの場をつくる立場にあります。

立場は大きく変わりましたが、「相手の立場で考える」という点は、今も変わらず大切にしています。

「この内容は現場で役立つのか」「受講者にとって意味のある時間になっているか」を意識し業務に取り組む中で、これまでの経験が今の仕事にもつながっていると感じています。

以前は研修を“受ける側”だった自分だからこそ、相手の立場で考えることを忘れずに、これからも受講者目線を大切にしながら業務に取り組んでいきたいと思っています。

■研修を支える立場としてのやりがい

一つの研修を実施するまでには、多くの準備や調整がありますが、無事に研修が終わったときには大きな達成感があります。

また、研修後に受講者の方から、「他自治体の事例が参考になった」「現場で活かそうです」「参加して良かったです」といった声をいただいたときは、やりがいを感じます。

自分が関わった研修が、少しでも現場の役に立つと感じてもらえたのであれば、これほど嬉しいことはありません。

また、研修を通じて全国の自治体職員がつながり、各地域に戻った後も関係が続くことを思うと、そのきっかけに関われていること自体に、大きな意味を感じます。

まだまだ試行錯誤の毎日ではありますが、こうした経験の積

み重ねが、次の研修をより良いものにしていく原動力になっています。

■私の「ほっと一息」

休日には、趣味の釣りや野球観戦を楽しんでいます。

釣りは鹿児島にいた頃から続けている趣味で、今でも、時間を見つけては海へ足を運ぶようにしています。

慣れない土地での生活の中でも、自然の中でゆっくり過ごす時間は良いリフレッシュになっています。思うように釣れない日もありますが、それも含めて楽しめるのが釣りの魅力だと感じています。

また、野球観戦も好きで、休日だけでなく、仕事終わりに球場へ足を運ぶこともあります。鹿児島にいた頃は、気軽に観戦へ行ける環境ではなかったため、仕事終わりに野球観戦を楽しむことも、千葉での生活ならではの楽しみの一つになっています。

忙しい日々の中でも、こうした「ほっと一息」の時間を大切にしながら、仕事とのバランスを上手く取り、充実した毎日を過ごしていきたいと思っています。

研修部主事 松崎



〈アカデミア担当職員からひとこと〉

初の県外生活を、前向きに楽しみながら挑戦しているのが伝わってきます！相手の立場で考える仕事は、私もぜひ見習います。これからの仕事も、そして釣果も、期待しています！